

東浦町社会教育委員の課題研究の経過報告

令和 6 年 3 月 14 日

1 令和 4 年 3 月 令和 3 年度東浦町社会教育委員会

「令和 7 年度愛知県社会教育委員連絡協議会東尾張支部研修会で東浦町が研究発表」をすることになっていると矢倉指導委員から説明。

研究発表までのスケジュール確認・・・小委員会の設置。令和 4 年度研究課題の決定、令和 5 年度研究、令和 6 年度研究の継続とまとめ、教育委員会への提案、令和 7 年度発表準備と発表

2 令和 4 年 8 月 4 日 第 1 回小委員会

- ・東尾張支部研修会の過去の市町の研究発表のタイトルなどの紹介と平成 27 年度東海北陸研究大会での本町の発表や平成 28 年度～29 年度の研究と町教育委員会への提案についての情報共有。

- ・本町における社会教育事業の課題について意見交換（フリートーク）

「老人会と子どもたちの交流」「世代間の交流」「祭礼」「区民運動会」「地域学校協働活動」「コミュニティまつり」などのキーワードを精査して共通する事項を探していくと課題が見えてくるのではないかと。また、他の市町で社会教育委員が組織だって地域の活動の中で実際に活動している事例を調査して、本町の研究の参考にしていく。

3 令和 4 年 10 月 25 日 第 2 回小委員会

- ・令和 7 年度東尾張支部研修会までの日程説明。

- ・研究テーマ決定に向けて、第 1 回に引き続きフリートーク（意見交換）

- ・世代間の交流の場である各地区の秋祭り、区民体育祭、コミュニティまつり等コロナ禍の中で規模が縮小されたり、実施できなくなっていて、ウィズコロナの社会になっても再開することが難しくなっている。世代間の交流を今後どのよ

うにしていったらよいのかを考えていく必要がある。

- ・高齢者から子どもたちまでをつないで活動できる仕組みとなる高齢者の人材バンクを作ることが必要。
- ・コミュニティスクールと地域学校協働活動との間のコーディネートにはかなりの労力がいるため地域学校協働活動の「見える化」が必要である。
- ・今回の委員会で、研究課題の方向が見えてきたので、次回までに石原、平井、矢倉指導員で研究課題の案を考えてくる。

4 令和5年3月16日 第3回小委員会

研究課題・「高齢者が、地域で生き生きと活躍できる社会づくりのための一考察」

(設定理由)

- ・高齢者の位置づけを65歳以上と設定。本町の人口に占める65歳以上の高齢者は約25%強であり、本町の人口を5万として、12500人である。老人会の入会者は年々減少して、令和4年度には2200人くらいである。定年延長や定年後の就職希望者の増加なども考えられるが、それ以外の人たちはどのような活動をしているのか。
- ・65歳成人式参加者のアンケート調査では、「いままでの経験を活かし、できる範囲で住んでいる地域や社会をよくする活動をできたらいいと思いますか。」という問いに「とても思う」と「まあまあ思う」をあわせた回答数が93%ということから、何らかの形で活動してもよいと思っている。
- ・1, 2回の小委員会では、高齢者から子どもたちまでをつないで活動できる仕組みをつくる必要があるとの意見が多く出されていた。
- ・そこで、高齢者が「あれがしたい、これがしたい」と思ったときに高齢者が活動しているグループや団体を気軽に検索できるシステムをつくることとして、

研究課題を設定した。

5 令和5年5月16日 第4回小委員会

課題研究に向けての役割分担

(1) 東浦町の実態調査グループ（A班）

石原（班長）、二宮、中村、南

(2) 高齢者が地域で生き生き活躍できるように頑張っている団体などの調査グループ（先進地区の調査を含む）（B班）

平井（班長）、松下、水野、外山

☆高崎先生には、研究方法、データ収集、集計、分析などの助言をいただく。

次回まで各班長を中心に、各班で実態調査先とアンケート内容についてメールで検討。

6 令和5年7月11日 第5回小委員会

各班での検討会

A班 南委員（地域学校協働活動関係） 二宮委員（スポーツ関係）

石原委員（ゆうゆうクラブ関係） 中村委員（コミュニティ関係）

☆二宮委員、中村委員はアンケート調査を実施し結果報告。南委員、石原委員はアンケート内容についての説明と意見聴取。

B班 平井委員（豊田市事例、東浦町文化協会関係） 松下委員（高齢者サロン関係） 水野委員（高齢者の働く環境等について）

7 令和5年10月13日 第6回小委員会

・第5回小委員会での役割分担で調査してきた結果について作成した表をもとに報告及び説明

・高崎先生から研究発表のサンプル提示（ポータルサイトの構築）

☆研究報告書の骨子の例を提示（委員長より）

☆高齢者が活躍している団体やグループについて、高齢者の検索サイトをハローセカンドライフと称して作成していく。

☆次回は各委員のきょうの説明を文章化して委員長にメールで送付。次回はその文章化したものを説明。

8 令和6年2月9日 第7回小委員会

- ・各委員から送付されてきた文書を研究報告書にはめ込んだものをもとに説明。
- ・東浦町の社会教育の実態（ゆうゆうクラブの現状、コミュニティセンターの取り組み、スポーツ関係の実態・追加調査も含めて、地域学校協働活動関係、）
- ・東浦町の各種団体の活動（東浦ふるさとガイド協会、手づくりよろいの会、竹灯籠の会、東浦防災ネット、東浦人材シルバーセンター関係）
- ・先進地の参考事例（豊田市セカンドライフガイドブック、愛知県「高齢者がいきいきと輝くまちづくりモデル事業」）
- ・東浦町ハローセカンドライフポータルサイトの作成と運営について（具体的展開について高崎委員のサンプルの使用と助言を中心に平井委員が作成）
- ・次回は研究報告書の素案提示と検討（必要なものがあれば矢倉指導員にメールで送付）
- ・次回第8回小委員会は令和6年度第1回社会教育委員会の後実施。